



さけがわ

# 議会だより

## 人口の里マラソン大会 / スタート・ゴール

催： 鮭川村 ・ 鮭川村体育協会 ・ 鮭川村教育委員会



### 【目次】

9月定例会議案審議	2P
決算特別委員会審査 質疑	4P
一般質問 村政を問う	8P
委員会所管事務調査報告	16P
議会広報研修 あとがき	18P

# VOL 118

平成27年10月13日

## 議案の審議

### ～ 条例の改正 ～

#### 鮭川村手数料条例の一部を改正する条例

マイナンバー制度導入により送付されてくる番号通知カード及び希望者に交付される個人番号カードを万が一、紛失した際に再交付を受ける場合の

交付手数料を定めたもの。	番号通知カードの再交付
一枚につき500円	個人番号カードの再交付
一枚につき800円	

#### マイナンバー制度導入による、管理される特定個人情報保護の適正な管理と保護に関して現在の個人情報保護条例に加えて規定を整備したもの

特定個人情報とは、従来の個人情報（個人に關

する情報で氏名や性別、生年月日、住所などによりその個人が識別できるもの）に、今回のマイナンバー制度導入による個人番号を含めた個人情報をいいます。

平成27年第6回鮭川村議会9月定例会は、9月4日から10日までの7日間の会期で開催されました。

一般質問は、7人が登壇し福祉や観光振興などについて質問をしました。

今定例会では、条例の改正と補正予算、平成26年度決算など村長提出議案14議案、議員発議（会議規則等の改正）1件が慎重審議され、提案された議案は全会一致で原案のとおり、全て可決されました。

マイナンバーは、行政を効率化し、国民の利便性を高め、公平・公正な社会を実現する社会基盤です。



(内閣官房広報より)

### 専決処分の承認

#### 一般会計補正予算（第5号）

133万円を増額する一般会計補正予算を8月6日付けで専決処分をしたもので

補正の内容は、

○今年の全国高校野球選手権大会に出場する、府の宮出身の阿部大さんを応援するため結成された鮭川村応援団への補助金120万円

○大平地区集落飲料水供給施設の修繕料（ポンプ修繕）補助金13万円



# 主な補正予算の内容

## ○一般会計補正予算（第6号）

**5303万2千円を追加し、  
予算総額34億2950万5千円とした**

～道路維持補修工事費、システム改修費等を補正～

ふるさと応援基金積立	10,000千円
番号制度導入システム改修費	10,000千円
予防接種委託料	2,200千円
村道路維持補修費	3,500千円
橋りょう維持補修費	5,564千円
ふるさと納税謝礼等	3,111千円
出産祝い金	1,980千円
多面的機能支払交付金	1,540千円
防雪柵設置調査設計委託費	1,000千円
小学校雪囲修繕料	3,780千円

## ○一般会計補正予算（第7号）

**60万円を追加し、  
予算総額34億3010万5千円とした**

鮭川中学校創立10周年記念事業費補助金

600千円

## ○簡易水道事業特別会計 （第2号）

**200万円を追加し、  
予算総額4億1730万円とした**

一般管理費（配水管等修繕費）

2,000千円

## ○介護保険特別会計 （第1号）

**364万5千円を追加し、  
予算総額5億6594万5千円とした**

介護給付費国庫負担金等返還金

3,645千円

鮭川村においても、村民の身近な相談に対応するため、山形地方方法務局新庄支局と連携して人権の啓発と人権相談会を実施しております。



人権擁護委員の制度は、地域住民の中から人格見識の優れた人たちを選び、その協力により、日常生活の中で人権を尊重する意識を広げていくために設けられました。

人権擁護委員は、法務大臣から委嘱された民間のボランティアの人たちです。

職務上知った秘密は必ず守ります。給与は支給されません。任期は3年です。

## 人権擁護委員制度のミニ知識

この度、人権擁護委員候補者に、高橋眞一氏（京塚）を推薦することについて、村長より、議会の意見を求められていたもので、審議の結果、全会一致で「適任者である」と回答することに決定しました。

**人権擁護委員候補者に  
高橋眞一氏を推薦同意**

# 平成26年度 歳出総額

# 45億9,746万円

## 一般会計 35億4,479万円

## 特別会計 10億5,267万円



特別委員会委員長

平成26年度の予算がどのように使われたか、一般会計及び特別会計の決算を審査するため、決算審査特別委員会で審査が行われた。

特別委員長に荒木京子議員、副委員長に土田太議員を選任し、9月7日・8日の2日間、付託された平成26年度各種会計歳入歳出決算について、平成26年度行政報告書も参照して9人の委員（議長を除く）で慎重審議がおこなわれた。

そして、委員会審査報告に基づき10日の本会議で全会計決算を全員の賛成で認定可決した。

会計区分	歳入			歳出			
	決算額	前年度比較	増減率	決算額	前年度比較	増減率	
一般会計	37億4615万円	△2億2035万円	△5.5%	35億4479万円	△1億8641万円	△5.0%	
特別会計	国民健康保険	23万円	△1万円	△4.2%	22万円	△1万円	△4.3%
	簡易水道事業	3億7254万円	2億1441万円	135.6%	3億6543万円	2億1359万円	140.7%
	農業集落排水事業	1億1650万円	535万円	4.8%	1億1202万円	566万円	5.3%
	介護保険	5億5982万円	1343万円	2.5%	5億3490万円	1217万円	2.3%
	後期高齢者医療	4035万円	1652万円	69.3%	4010万円	1644万円	69.5%
	計	10億8944万円	2億4970万円	29.7%	10億5267万円	2億4785万円	30.8%
合計	48億3559万円	2935万円	0.6%	45億9746万円	6144万円	1.4%	

(万円未満四捨五入)



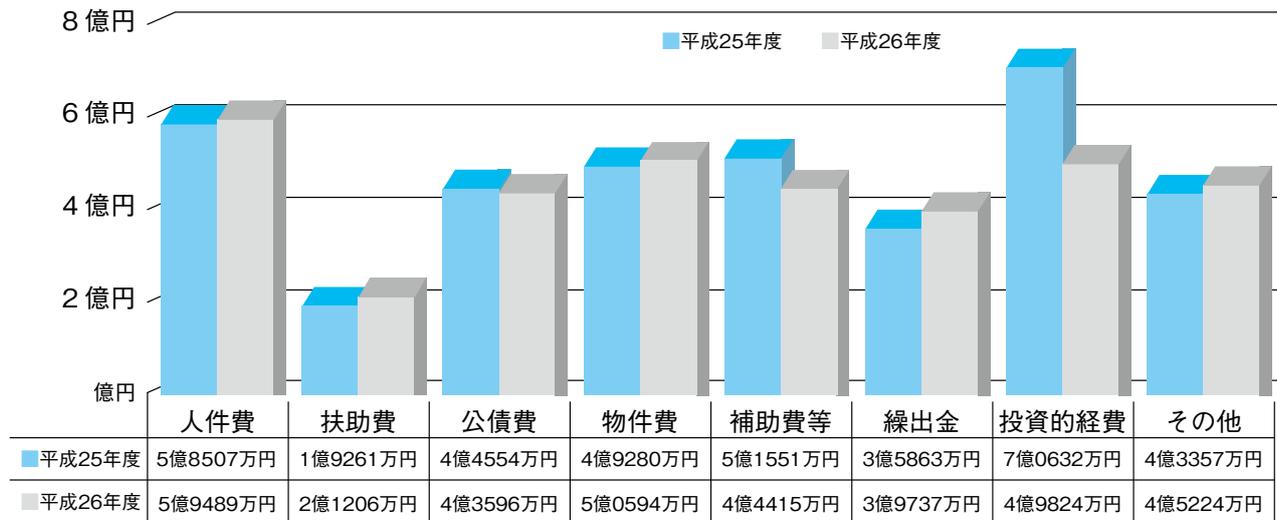
決算審査特別委員会  
(決算内容の説明を受ける)



防災拠点再生可能エネルギー導入促進事業補助金を受けて整備した太陽光発電パネル(中央公民館)

# 使用した総額46億円、 その内容を検証

## 一般会計性質別歳出決算前年度比較



### 監査意見書から

#### (抜粋)

平成26年度決算は、自主財源が低く、地方交付税等に依存せざるを得ない財政構造にある。

引き続き適切な予算編成及びその執行に不断に取り組むよう要望する。

審査を通じて気づいた点は以下のとおりである。

(一) 職階制の意味を吟味し、適切な予算措置、適正な予算執行など精度を高めるために、法令順守におお一心掛けること。

(二) 職員の世代交代が進んだ職員構成となっている。職場が組織として機能する体制づくりを進め、村民



決算審査結果を報告

福祉の向上に努力すること。

(三) 大豊地区農業集落排水事業の加入率向上について当面加入率80%を目標に普及に努めること。

(四) 不用額は、一般会計と特別会計で8345万2千円となっている。

さらに的確な予算措置、適正な予算執行に努めること。また、予算の流用が多くなっているため安易な流用とまらないよう留意すること。

(五) 収入未済額は、一般会計と特別会計で4665万9千円となっている。

収入未済額の解消について、引き続き収納率の向上に努めること。

(六) 不納欠損により、一般会計と特別会計で515万8千円が処理されている。

時効の成立や生活実態などにより、やむなく徴収を放棄したとしても時効の成立を極力回避されるよう工夫と対策を講ずること。

# 決算審査の質疑

## 「一般会計」

(質問・答弁の内容は要約して掲載)

### 総務関係

**問** 不用額が多い。3月に入つての確定ということもありえるが、ほとんどの事業は、3月補正で精査できるものと考えているか。

**総務課長** 不用額については、補正できちんと精査してその縮小に努めるよう指導していきます。

**問** 公有財産の増減で乗用芝刈り機、ホイロローダの減分は、売却したのか、廃車処分したのか。

**会計管理者** いずれも更新に伴い無償譲渡をしたものです。芝刈機はフリーハンドへ、ホイロローダはピックアップファームへ譲渡しました。

### 税務関係

**問** 税の滞納金額が増加している。どのような努力と改善策を講じたのか。また、徴収について外部に委託ということは考えていないのか。

**住民税務課長** 個別に面談を行いながら納付計画の作成と納税意識を高めています。外部委託については、他の市町村の状況も調査してみて勉強をしていきます。

**問** 税と料などの滞納額処分について、時効となったから不納欠損するなどということは、公平負担の立場からすれば好ましくないこととであり、滞納処分をきちんとすべきでないか。



決算審査特別委員会(質疑)

**住民税務課長** 公金収納対策委員会でも議論しています。税の徴収においては、日曜日の直接家庭訪問徴収、個別に納付相談をするなどしているところでありまして、単に時効による欠損処分とならないよう、一件一件調査をして、徴収に向け努力をしていきます。

**問** 不納欠損の理由が処分する財産がないということであるが、家屋や土地など不動産があるはず。その理由はおかしくないか。財産調査をもっとしっかりとやるべきでないか。やるべき

きことはきちんとして不動産を含めて差し押さえ処分なども行い、競売も検討すべきでないか。

**住民税務課長** 処分する財産がないためと説明した件については、生活困窮により納付が極めて難しいとの判断で処分したとの説明とすべきでありました。訂正します。

**問** 平成26年度中、法定外公共物の売却があったとの説明があったが、行政報告書の土地建物異動処理件数で登記件数0件となっているがなぜか。

**住民税務課長** 異動処理件数調書は、平成26年1月～12月の暦年処理したものを記載しており、法定外公共物の異動は、平成27年3月であったため、0件となった。来年度から年度での集計としたい。

### 生活住民関係

**問** 生活交通確保対策補助金837千円の内容は。

**住民税務課長** 村内6路線及びデマンドバスの運行経費の赤字補填として県からの補助金であります。

**問** ゴミ袋一枚50円の設定根拠と価格の引き下げはできないか。

ごみを出す際のごみ袋のとり方でテープ止めは、だめなのか。

**住民税務課長** 一枚あたりの価格は、最上管内統一価格としている。結んで出すということについて、テープ止めが可能かどうか協議させてほしい。

**問** 行政報告の中で大量のカラスの駆除の実績が載っているが、主としてどの辺の駆除か。

### 危機管理監 有機農業者協会付近であります。

農家への被害状況も含め、今後も調査しながら、わなの設置で駆除を検討していきます。

**問** ドクターヘリ用ランデブーポイント10箇所となっているが、どのように村は管理をしているのか。

### 危機管理監 役場前、中央公民館、鮭の子館、地区公民前など10箇所を指定しているが、役場駐車場を主たるランデブーポイントと考えています。

他の場所は、村で特別管理をしているということではありません。今後場所、箇所数など見直しを検討していきます。

## 福祉関係

**問** 高齢者虐待防止連絡協議会委員と障がい者相談員は、何人なのか。

### 健康福祉課長 高齢者虐待防止連絡協議会委員は、警察官、施設長、医師など7人で、障がい者相談員は3人おります。

**問** 出産祝い金に関し、出産予定者はあらかじめ把握できているはずだが、不用品が15万円だったのはどうしてか。

しっかり把握されているのか、課内での事務的な連携されているのか。

### 健康福祉課長 母子手帳交付の関係で把握はしております。

翌年度4月出産予定者が3月中に出産となることも予想して予算を留保しておりました。

## 住宅関係

**問** 公営住宅の使用料の未納額が増えてきているが、何人でどんな対策を執っているのか。

保証人までの対応をしているのか。

**農村整備課長** 現年度分1名、過年度分3名で、実滞納者は3人です。

面談による納入の相談をしており、返済計画を立てさせて、少しずつ減ってきている状況にあります。保証人までの相談はしていません。

## 観光振興関係

**問** 観光振興アドバイザー設置の活用状況と効果は。

### 商工林政主査 観光振興アドバイザーから間欠泉の可視化や天然ガスの活用などさまざまなアドバイスをいただいています。

平成27年度に報告書をまとめてさまざまな検討をし、今後活用していきたいと考えています。

## 農業振興関係

**問** 今後10年、20年後を見据えた農業の有り方や将来を担う方のための農地等管理図面のデータ管理を行う予定はないか。

農村整備課所管の農業基盤整備事業と産業振興課で所管する農業振興事業が一体となった図面管理等進める必要があるのではないかと。

### 農業委員会総務係長

現在の人農地プランにおいて、村内の農業担い手や耕作放棄地解消など、今後の地域での農業経営諸問題解決に活用するため、図面管理しているが紙ベースであり、データ処理に至っておりません。

## 教育関係

**問** 教育資金貸付金の滞納者は何人で、いくらか。親以外の保証人に対する請求は、したことがあるのか。

**教育課長** 現在8名で345万円となっています。滞納者からの回収を、今後もしっかりと行い、場合によっては、親以外の保証人にも相談していきます。



決算審査特別委員会(質疑)

# 与蔵峠付近での風力調査状況と 施設整備に向けた村の対応予定は

村長

## 基礎データ調査結果を踏まえて

## 事業実現対策を行う



丸山 重幸 議員

**議員** 山形県では昨年から  
置賜地区と最上地区の2箇  
所で環境エネルギー対策と  
して風力調査が実施されて  
います。  
これは、日本海側からの  
風力を活用する発電を見越  
した調査だと聞いています。  
昨年10月からの調査でまだ  
結果は出ていないと思いま  
すがもしこの事業が与蔵峠  
に採択された場合には、村  
としても大きな経済効果が

生まれるのではないかと期  
待している一人であります。  
村では与蔵周辺を考えた観  
光開発や酒田までの道路整  
備等、総合開発を計画した  
経緯もあります。  
まして村長は、羽根沢周  
辺の観光開発を公約として  
掲げているとすれば、調査  
の結果待ちでの対応だけで  
いいのか、その計画を前提  
とした仕事があるような気  
がしてなりません。

このような大きなチャン  
スが目の前にある以上、村  
としての今後の対応をどの  
ように考えているのか聞き  
たい。  
**村長** 県では、平成43年度  
までに再生可能エネルギー  
を約100万kW生み出す  
計画を設定しました。  
このうち風力発電は、全  
体の46%に当たる45万8千  
kWとしています。  
風力発電は、一般的に海  
岸沿いへの施設整備として  
いましたが、内陸部の自然  
エネルギーを生かした施設  
整備へ向け、本村の与蔵峠  
でも昨年10月より1年間に  
わたり、調査が開始されて  
います。  
その後は、観測データを

基に風向、風速の出現頻度、  
出現特性と風向別年間最大  
風速の検討を行い、平成28  
年3月に採算性などを判断  
する基礎データの調査結果  
を公表し、可能性ありと判  
断された場合は、民間事業  
者による内陸部での風力発  
電導入の検討につなげてい  
くこととなっています。  
現在のところ県において  
は、基礎データ調査結果が  
確定していない段階では、  
進める方向性はまったくに

白紙状態であるとのことで  
ありました。  
村としては、事業性の見  
えないうちの対応は難しい  
ものと判断しているところ  
であります。

今後とも県に対し調査基  
礎データ結果からの説明や  
事業の方向性についてでき  
るだけ早く周知をされるよ  
う要望していきますし、可  
能性ありの結果が出れば  
早々に対策検討に入ってい  
きたいと考えています。



一般質問  
村政を問う

# 健康で長寿の村への 疾病予防対策は

## 村長 健診率向上と健康増進事業により 健康寿命延伸の支援対策を講ずる

**議員** 村の基本施策である健康づくりについてお尋ねします。

村は、健康診断やがん検診を実施し、がんの早期発見に努めているが受診率とがん検診の効果について聞きたい。

また、村では、生活習慣病予防のための講座や食事・生活指導を積極的に実施し三大疾病に襲われないための予防対策を講じてお

り、今年度からは脳疾患について年齢を制限し2万円を補助し、早期発見を推進しておりますが、なかなか三大疾病においては、症状が表れないと検診しない傾向があります。がん、脳、心臓の三大疾病に襲われな

いたために、年齢に関係なく半額補助をしてでも積極的に健康診断を勧め、長寿になっても健康で仕事ができる身体づくりをすること

は、村の財政負担の軽減につながると思います。村として三大疾病予防の方策と対策について聞きたい。

**村長** ほほえみあふれる和みの村づくりを基本理念に村民が健康で心豊かに生活できる活力ある村づくりを目指す生活習慣病とがん対策に取り組み健康寿命の延伸を目標とした健康づくりを行っています。

平成26年度の特定健康診断（メタボリックシンドロームの予防を目的とした健康診断で従来でいう基本検診に腹囲測定が加わったもの）率は43・6%でありました。この数値は最上管内の平均受診率37・7%を上

回っているものの計画目標の70%には至っていません。また、平成26年度のがん検診の受診率は胃がん検診23・2%、大腸がん検診29・8%、子宮がん検診26・4%、乳がん検診28・8%、肺がん検診36・9%といずれも低い状況であります。

がん検診の効果は、検査の制度が年々上がり、がんの発見率も高くなっており、早期発見は、治癒率が高く、経済負担も軽くて済むため、受診率の向上にさらに力を入れていきます。

三大疾病予防の方策と対策については、村の取組みとして大きく2つに分類し、ひとつが食生活の改善を目標に掲げた健康増進事業、2つには病気の早期発見のための2次予防と重症化予防に目標を置いた健康診断事業であります。

特に健康診断事業においては、受診率低下の課題解決のひとつとして休日の健康診断の日を今年度は4日

間に増やしました。また健康診断の個人負担の軽減のため人間ドックや特定健康診断、がん検診の受診料金の約50%を助成し、41歳の厄年検診の場合は検診料金を無料にするなどの施策を講じています。

さらには健康診断の大切さと受診の意識啓発を含めて新たにさけがわ健康マイレージ事業を実施します。今後も村では村民が自らの健康と家族の健康を守るため、一人ひとりが主体的に健康づくりに取り組めるようにその支援環境の整備に努めていきます。

健康診断会場の農村交流センター



議員 土田 太



健康診断会場の農村交流センター

# 結婚支援員設置の考えは

村長

## 村にとって望ましい結婚支援活動に向けた検討と対応をしていきたい

**議員** 平成23年12月議会において、結婚活動について質問をした際に各市町村の行政、商工会や地域の若者、総合支庁からのアドバイザー等で構成された、最上広域婚活実行委員会が設置されていると聞きました。

様々な活動を通して婚活イベントをされているようですが、鮭川村では、どの程度の成果が上がっているのでしょうか。

イベントに参加しにくい方も多く、なかなか結びつくところまで行かないように見受けられます。

最上8市町村のうち5町村で既に結婚の世話をする方、支援員が一般の中から選任され活動しており、その方たちの情報交換等もあり、結婚につながっていると聞いています。結婚まで実った場合にはその支援員に謝礼が支払われる町村もあるようです。

鮭川村においても結婚支援員を設けることにより気軽に相談でき、近隣の町村支援員との情報交換もでき、1組でも多く結婚できることが期待されると思います。

村長はどのように考えているのか聞きたい。



水戸 一徳 議員



**村長** 最上広域婚活実行委員会の状況とその成果については、平成22年に最上総合支庁、市町村、商工会、地域の若者そして県からのアドバイザーを加えて組織され、若者向けのイベント、男性のスキルアップを目指した講習会を開催してきています。

その参加者は、年間約100人の参加で平成26年までの成立カップル数は、16組となっています。

そのうち鮭川村からの参加は、平成26年度2名でしたが残念ながらカップル成立には至りませんでした。

婚活実行委員会としては、結婚を大前提としてイベントに勇気をもって参加し、将来の伴侶を見つけることができればより結婚への道は近くなると考えております。しかし、鮭川村も含め、参加しにくいなどでイベント等への参加会員が少ない状況であることからすれば参加しやすい企画やアプローチ、PRが必要であると思っています。

このことは、先の地域づくり座談会やこの度の

「まち、ひと、しごと創生戦略」策定過程においても多くの意見やアイデアが出されており、その中で結婚までの「世話役」や「支援員」という人・組織が必要でないかという意見もありました。

結婚支援員制度については、管内5町村で実施され、支援員の数や成功報奨金、運営方式も直営あるいはNPO法人や商工会等へ委託しているなどさまざまであります。

本村においても今年度「もがみ北部商工会鮭川支部」による地域での出会いイベントを予定しています。人口減少が社会問題となっている現状において、結婚はそこに抗する第1歩であることと、そのひとのみならず地域が元気となることに間違いありませんので、本村の結婚支援活動を前進させるための企画について各方面からの意見をいただきながら望ましい支援活動について時間を置かずに検討し対応していきたいと考えています。

# 中央公民館前敷地の有効利用について

教育長

## グラウンド整備工事を来年度に着工できるように努力していく

**議員** 平成23年12月議会において、中央公民館前の敷地の有効利用について一般質問をしましたが、そのときの答弁は、多目的運動公園として「総合運動エリア」整備をしていくとのことでした。

最近になってサッカー場を主体として整備していくと言うことですが、なんら整備の進展性が見えません。

今後の計画等について再度教育長に伺いたい。



遠田 伯保 議員

**教育長** 平成23年の質問への答弁として、公民館前「多目的運動公園用地」30,478㎡について中央公民館と一体となった「総合運動エリア」として村民の意見を聞きながら整備し、村民の健康づくりの推進をめざして行きたいと村長が回答しております。

その後の経過としては、平成25年6月から中央公民館前用地検討委員会が5回開催され、検討の結果として人工芝のグラウンド1面、クレーコート（土質材料を固めて砂を敷いた地面）、芝生広場及び室内運動場を兼ねたクラブハウス1棟を整備すべきであるとの報告を受け、平成26年12月の教育委員

会でもその方向性で決議をしました。グラウンド整備を進めるに当たり、底地が水田で残土を整地した土地であることから用地の地質調査が必要であると考へ、今年度調査を実施しております。

村長から、グラウンド整備を早めるよう指示を受け、全体整備計画のうち、先行してグラウンド整備を進めることとしています。

財源につきましては、日本サッカー協会からの助成金とスポーツ振興くじ助成金の獲得に向け進めております。

地質調査成果報告がまもなく出てきますが、その後の財源等の内容を検討させていただきながら来年度の当初予算にグラウンド整備工事費等を計上できるように、できれば年度内に基本設計が組めるようにしていきたいと考えています。



H28年度からグラウンド整備着手予定の中央公民館前広場

一般質問  
(村政を問う)

# こどもの遊び場と 遊具の整備について

**村長** 中央公民館などに遊具を整備し  
「遊び場」の確保を進めていく



荒木 京子 議員

**議員** 閉会中の事務調査で、山形市の「べにっこ広場」、  
「やまぎん子ども館」を視察してきましたが、施設内で元気いっぱい走り回り遊ぶ姿、その付き添いのお母さん方が育児について語りあう姿、おじいちゃんやおばあちゃん方は、遊ぶ孫たちを見ながら会話が弾んでいるのが印象的でした。

できる場所は、鮭川村にも必要であると考えます。これから整備される中央公民館前の用地の活用計画のひとつに、子育て支援のための遊び場と遊具の整備をぜひ考えてほしいと思います。

これは、村民、特に子育て中の皆さんの強い要望でもあります。  
村長の考えを聞きたい。



べにっこ広場の大型遊具

新庄市との連携による「子どもの遊び場確保」のため、季節を問わず子どもたちや親等が利用できる施設として「わらすこ広場」の充実に向け協議しております。村内での遊び場については、保育所や中央公民館等の既存施設を利用し、そこに遊具を設置した遊び場の確保に向け話を進めていきたいと考えています。

## 常設のグラウンドゴルフ場について

**村長** 遊休地などの利用によりいつでも利用可能な状態を作る

**議員** 高齢者を中心とした健康づくりや仲間づくりのため、村でもグラウンドゴルフは、誰でも気軽にできるスポーツとして親しまれています。

しかし、その都度グラウンドゴルフのホールポスト等を準備し、終わったら片付けると言う状況にあるようです。

そこで鮭の子館やエコパークの広場にホールポ

ストを常設する状況を作っていたらいつでも気軽に好きな時間に利用でき、それが健康維持につながるものと思います。

いつでもプレーができる環境を整備してほしいとの要望もありますのでグラウンドゴルフが気軽にできる場の整備について、村長の考えを聞きたい。

**村長** 鮭川村には、常設のグラウンドゴルフ場はありませんのでエコパークのフリーサイトの上側の広場にホールポストを設置し、いつでもプレーができる状態を作っていきたいと考えているところです。

また、今後村のグラウンドゴルフ協会の意見も聞きながら村内の遊休地等を含めて気軽にプレーできる場所の確保の検討をしていきたいと思っています。

般質問  
を問う

# 本村の地域資源を どう発信していくか

## 村長 管内出身者に、村と都市の 懸け橋になっていただきたい

**議員** 本村の魅力ある自然・食・観光などこれらの資源価値を高めるべく、特に交流では、荒川区、東村山市、伊奈町等、中央との交流をキーワードとした本村のPRに努められていくようであります。地域おこし協力隊や地域活性化専門員を配置してのPRもいいかもしれません。詳しく、たとえば鮭川村あるいは、最上郡内の出身者で中央において活躍され、退職された方を委



荒木三智郎 議員

嘱して、村のセールスをしていただくというのはいかがでしょうか。田舎と都会の両方を知っている方なら大きな力となるのではないのでしょうか。地方創生と叫ばれている中、人口減少が顕著な本村であります。これらを打開するためにもこれまでとは少し視点を変えた戦略をとりながら、本村のすばらしい資源を大いに発信していくべきと考えますが、これらの資源発信の施策についで聞きたい。

**村長** この間、この自然、食、観光などの地域資源の活用は、

鮭川村地域資源戦略会議を中心に取り組んでいたが、新たな取り組みへの挑戦など村の地域資源の活用枠を広げていただいております。

都市との交流に関しては、荒川区との「鮭の里親事業」は、物流のみならず人的交流も深まってきたっており、さらに工夫しながら長期的な視点で取り組んでいきます。

また、新たな情報発信として昨年度、本村出身者であるマツコイ斉藤氏を観光大使に任命し、その都度本村の魅力を発信していただいております。

管内出身者で中央で活躍されている方に村のセールスを担っていただくという提案は私も同様な思いであり、昨年度から数名の方とお会いし村と都市との懸け橋になって力になってほしいと願っています。

さらに、現在J山形もがみ、そして戸沢村、大蔵村と共に新たな「アテナシヨップ」の構想も惹起しております。

## 農業集落排水と合併処理浄化槽との維持管理費格差解消を

### 村長 普及率の向上対策を最優先に 併せて使用料の見直しを予定

**議員** 生活排水処理について、鮭川左岸区域は、農業集落排水、鮭川右岸区域について合併処理浄化槽の対応となっております。

両者の維持管理費を比較すると依然としてそ

の差は大きく縮まっていない状況にあります。

村民の公平を考えた場合にも維持管理費の格差を解消すべきと考えますが村長の考えを聞きたい。

**村長** 本村の生活排水処理の全体普及率は、平成26年度末で61.5%に止まっております。

よって、普及率の向上が喫緊の課題として、この間、集落排水料金の据え置きや浄化槽の設置補助の嵩上げなどにより、事業推進に努力しているところであります。

維持管理費の格差の解消については、まずは、これらの普及率の向上に重点的に取り組み、さらには、長い間据え置いてきた集落排水使用料の見直しに向けて準備を進めているところであり、その上で判断させていただきたい。

# 高齢者ひとり世帯や老夫婦世帯への生活支援について

**村長** 多様化する高齢者ニーズに地域の力で支え合う体制づくりも必要



矢口 健二 議員

後どのような生活支援を考えているのか聞きたい。

**村長** 本村の65歳以上で一人暮らし世帯は

**議員** 全国で人口減少や高齢化が進み、老老介護や孤独死などが社会問題となっています。

本村でも高齢化率が年々たかくなり、ひとり及び老人世帯も190世帯余りと全世帯の13%強を占めております。村では、除雪費用助成事業をはじめ、湯らっくす事業、サロン事業などを既に実施され、今年度から新たに食の自立支援事業として配食サービスもスタートしましたが、さらに今

101世帯、二人暮らし高齢者世帯は92世帯と人口減少下での高齢化が顕著な状況であります。高齢者が増え、地域のつながりが希薄化している中、今後必要な生活支援事業として、元氣な高齢者が一人でも生活が続けられる仕組みづくりと支援の必要な方も安心して地域で暮らすための仕組み作りだと考えています。

今後の施策として介護認定までに至らないもの、長い距離を歩くことが困難

な一般高齢者等を対象として電動四輪車の貸出助成事業を来年度から実施したいと考えております。

また、支援の必要な方を支えるためには、地域の力が欠かせないと考えますので「介護予防ボランティア」養成講座を開催しそのための人づくりを行っています。

これからは、自宅の管理や調理などが困難となる高齢者も増えることが予想されるため、見守りができる場所での支援体制づくりも課題と考えております。

このように多様化する高齢者のニーズを支えていくためには、公的社會資源だけでなく、村民と行政がともに取り組まなければならない課題と考えています。



村湯らっくす事業で会話もはずむ

## 中央公民館前広場へのグラウンドゴルフ場の整備は

**村長**

### グラウンドゴルフとしても利用可能な多目的スポーツ公園に

**議員** 本村でも最近グラウンドゴルフを楽しむ高齢者が大変多くなっています。

今後整備されようとしている中央公民館前広場の一部にグラウンドゴルフ場やパークゴルフ場などの整備計画について、どう考えているのか聞きたい。



**村長** 公民館前に計画している施設は、人工芝のグラウンド1面、クレイコート、芝生広場及び室内運動場を兼ねたクラブハウス1棟という検討委員会の報告を受けての考えに立っています。

先行して整備するグラウンドは、サッカー競技を基本に考えていますが、サッカー以外のスポーツでも人工芝グラウンドを利用できるようにと考えていますし、芝生広場では、グラウンドゴルフにも利用できるものと考えています。

**一般質問**  
(村政を問う)

# 臨時会の開催

## 第4回村議会臨時会

開催日 7月2日

### 丸森集落飲料水供給ポンプ 更新費用に補助

…… 一般会計補正予算の専決処分を承認

歳入・歳出64万1千円 たものでその更新費用に追加したもので内容 対し補助するための予算は、丸森地区集落飲料水 を専決処分したものである。

供給施設（ポンプ）が経年により修繕不能となつ

### 鉾害災害復旧 測量設計費用等を追加

…… 一般会計補正予算を審議し可決

歳入・歳出200万円 て調査と工事の設計費用を追加したもので、内容 等を補正したものは、左道地区公民館敷地において以前存在した炭坑が原因と見られる陥没が発見されたことから特定鉾害災害復旧事業とし

## 第5回村議会臨時会

開催日 8月4日

### 左道地区鉾害災害 復旧費を追加措置

…… 一般会計補正予算を審議し可決

歳入・歳出400万円 を計上し、早期の復旧（約）を追加したもので、内容 1ヶ月程度の工期）を行は、左道地区公民館敷地 い、地区の安全性を確保に発生した鉾害災害復旧 するもの 工事費として400万円

### 旧校舎等解体工事 着手にゴーサイン

…… 旧大豊小学校校舎等解体工事

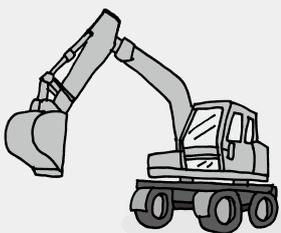
請負契約の締結を可決

村の定住促進住宅建設 ・請負業者

用地に決まっている旧大豊小学校の解体工事請負契約について議会の議決を必要とするため、議会の議決に付したもので

・請負金額8316万円  
・工期

平成27年12月25日まで



## 議会日誌

### 7月

1日 村議会広報調査特別委員会  
2日 村議会運営委員会  
第4回村議会臨時会

8日 村戦没者追悼式

8日～9日 全国町村議会広報研修

15日 県知事を囲む市町村自治振興懇談会

17日 総務文教常任委員会閉会中の事務調査

24日 産業厚生常任委員会閉会中の事務調査

31日 正副議長、委員長懇談会

### 8月

2日 上大淵・日下間道路改良促進同盟会総会

4日 村議会運営委員会

第5回村議会臨時会 議員全員協議会

14日 村成人式

20日 議長・局長中央研修会

23日 大豊サッカー発足50周年記念式典

26日 正副議長、委員長懇談会

### 9月

1日 村議会運営委員会 議員全員協議会

2日 最上地方町村議長会例会

最上広域事務組合教育センター開所式

4日～10日 第6回村議会定例会

12日 村敬老会

13日 村トトロの里マラソン大会

24日～25日 最上地方・荘内地方議長合同会議

28日 最上4町村スポーツ交流会

# 婚活支援は、気軽な出会いの場の設定と世話人体制の確立が必要

実施日：平成27年7月17日（金）

## 閉会中の所管事務調査報告

### ※視察先の概要及び調査の内容

この日、最初に研修した河北町では、結婚活動の支援事業として平成21年度から取り組んでおり、町の社会福祉協議会への委託方式を執っている。

行政としては、健康福祉課が担当窓口となり、社会福祉協議会内の結婚相談所（6名の女性結婚相談員）と協働して側面的支援体制を図っている。

結婚に関しての相談件数は、通算1037件におよび、結婚紹介実績として417件となっている。そのうち、成婚に至った件数は8組ということである。

次に研修した舟形町においては、平成25年にテレビで放映された「舟形の花嫁お見合い大作戦」をきっかけに人口減少対策の一環と

して婚活事業に力を入れている。

放送のあった翌年からは、町独自で「フナコン実行委員会」を発足させ、婚活イベントやお見合い大作戦が町の観光PRを含めて開催しており、2回の開催で19組のカップルが誕生し、7組が結婚しているという状況であった。

町では他に婚活イベントを実施する団体に補助金を交付する、あるいは成婚者には結婚祝い金を支給するなどして結婚活動を支援している。

### ※調査の結果

結婚は、個人の考え方や思いがそれぞれあってその支援体制づくりは、難しい面がある一方で、少子化が加速している現状下においては、婚活支援対策を講ずる必要性も高まってきている。

最近の社会情勢と仕事内容や生活環境の様変わり

より、男女ともなかなか出会いの機会が少ないことは、少子高齢化、生産年齢人口の減少といった要因に直結するなど重要な問題である。婚活支援は、気軽さと友達を誘い合えるような機会をできるだけ多く提供し、結婚への意識付けとアドバイザーや相談に乗ることで結婚に対する前向きな対応となるように、世話役的な体制づくりも重要かつ必要であると考える。



婚活支援に対する情報を意見交換（河北町）

# 村にも幼・児童等が楽しんで、ふれあいができるそんな遊具等整備が必要

実施日：平成27年7月24日（金）

## ※視察先の概要及び調査の内容

最初に視察した「やまぎんこども館」は、県が取り組んでいる子育て支援の一環で20年前から実施している。

年間の来館者数は、4万6千人程度で、月平均3千人から4千人の来館となっている。

事業運営主体は、県の指定管理者「NPO法人みらい子育てネット山形」が運営しているもので入館料は無料となっている。

施設内に大型遊具などを設置し、乳幼児から小・中高の児童生徒はもちろん、誰もが利用可能となっており、こどもが成長する過程で、自由に、しかも自主的に遊ぶことで自らの可能性を開いていくための環境づくりに貢献している。

また、次に視察した山形市が運営している「べにっこ広場」は、平成26年12月に完成したもので、7月23

日現在の延べ利用者数は、19万人弱となっている。

子育て支援センター機能を有している施設で、山形市産の木材を使用し、木のぬくもりと香りを感じながら遊べる施設で、総工費21億8千万円となっている。

対象年齢は、幼児から小学生までの児童としている。

健やかにのびのびと成長していくための遊びの空間と環境づくりを目指している。施設利用料は、一部の施設を専用使用する場合のほかは、無料となっている。

## ※調査の結果

両児童遊戯施設は、山形市内にある施設ということを利用して、本村とは諸条件の違いがあり、単純に比較対象とすることはできないものの、「遊び」から知識を習得し、「成長する」・「育つ」という過程においては、同様に共通の認識として考えていく必要がある。

本村においては、当面新たな遊び場の施設を計画することなく、既存の屋内・屋外施設を有効利用していく考えであるが、そこで遊ぶ年代層によって、楽しく使って、ふれあいができるような種類の遊具等の整備は、必要であると考えられる。自由にいつでも利用しやすい施設整備とその環境づくりが望まれるところである。

べにっこ広場の施設を視察



遊びから学ぶ子育て支援の説明を受ける  
(やまぎんこども館)



## 議会広報研修で全国町村の 広報紙に学ぶ

平成27年7月8日に東京都全国町村会館において、議会広報研修会が開催されました。

鮭川村からも議会広報委員6名が参加し、クリニックに応募のあった議会広報紙をもとに講師の先生による紙面の講評と地域住民に議会や活動の内容をわかりやすく知らせる広報紙づくりを研修してきました。

今回クリニックを受けたいずれの議会広報紙も紙面づくりに議会広報委員の工夫がなされ、力が入った素晴らしい議会広報紙であり、参考とすべき事項がたくさんあって意義のある研修であったと感じてきました。



研修開会前のひととき



見てもらえる紙面づくりの  
技法について学ぶ

## 建設振興策に関する要望書 山形県建設業会最上支部が議会へ

平成27年9月9日に山形県建設業会最上支部より、地域の経済と地域雇用を守る会員企業の更なる進展・強化のための支援について、11項目に関する要望事項をまとめた要望書を村議会議長宛に提出がありました。執行者である村長とともにその振興策の協力を要請されたものであります。



### あとがき

第6回村議会9月定例会は、提出された議案全てを可決し閉会しました。

今議会では、平成26年度

の決算審査が行われ、村民が安心・安全で暮らすための諸施策が施行されていたことを確認し認定しました。

さて、猛烈な暑さの中、

今年行われた全国高校野球大会に鶴岡東高校が出場し、見事2回戦突破、その立役者として4番バッターの本村府の宮地区の「阿部大」君の活躍が光りました。

村民に大きな感動と勇気を与えてくれました。

改めて御礼と益々の活躍を期待します。

また、9月の集中豪雨により関東、東北地方で洪水に見舞われた被災地域の皆さんは、大変な思いをされ

たこととお見舞いを申し上げます。

収穫中のハウスや収穫目前の田んぼが一瞬で荒野になるなど大変な惨事になりました。

自然災害の恐ろしさと防災対策の大切さを改めて痛感させられました。

一日も早い復興がなされることをお祈りいたします。

鮭川村では、収穫の秋を迎え、黄金色に実った稲穂の刈入れが進んでおります。どうか、事故のない安全な農作業を行っていただくことを願い、編集後記とします。

(文・水戸一徳)

議会広報調査特別委員会

委員長 矢口 健二

副委員長 荒木三智郎

委員 土田 太

委員 水戸 一徳

委員 丸山 重幸

委員 遠田 伯保